

令和5年度 入学試験問題

国語

※試験開始のチャイムや合図があるまで開かないこと

〔注意事項〕

1. 問題用紙は、9ページまでである。
2. 解答は、すべて別紙の解答用紙の所定欄に記入すること。
3. 解答用紙への記入は、試験開始後に記入すること。
4. 解答用紙には出身中学校・受験番号・氏名を必ず記入すること。
5. 試験開始の30分後から退場はできるが、解答用紙は必ず裏返して退場すること。
6. 問題用紙は、各自で持ち帰ること。

常磐高等学校

一 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

言語の受け手と「場」に注目して、「話しことば」と①タイショウしながら、「書きことば」について整理しておこう。「情報」には発信者と受信者がいる。「話しことば」ではそれが「話し手」と「聞き手」で、「書きことば」ではそれが「書き手」と「読み手」ということになる。

「話しことば」においては、通常は「話し手」と「聞き手」とが、言語情報がアウトプットされる空間と時間、すなわち具体的な「場」を共有している。

「話しことば」を「音声言語」と呼ぶことがあるが、「音声」とは結局音波、すなわち空気振動であるので、「音声」が届く範囲が限定されている。大きなホールで肉声で話そうとすると、後ろのほうには声が届かないということが起こる。これはそこまで空気振動が到達しないということである。「話しことば」は、②録音というようなかたちで記録し、後からそれを聞くということをしない限りは、その場にいる人しか耳にすることができない。つまり「場の共有」が前提となる。

いっぽうで、テレビやラジオなどでは、「ア」側からは「イ」が特定され、「イ」側からは「ア」が特定されていないことがほとんどだろう。そうした意味合いにおいて「場」、具体的な空間と時間が共有されていない。インターネット上の動画などを視聴する場合も同じだ。視聴しているのは「話しことば」であるが、「イ」として「ア」は特定されていない。

「場」に制約されていた「話しことば」をその制約から解放したのが「書きことば」といってよい。したがって、「書きことば」はそもそも「読み手」を選ばない、ともいえる。ただし、手紙のようなものの場合には、「書き手」は誰が「読み手」であるかがわかっている。その特定された「読み手」に向けた「書きことば」ということになる。平安時代の女房が子供にあてて書いた手紙がある。字は読めているのだが、内容がわかりにくい。それは、「書き手」と「読み手」とが多くの情報を共有しているために、言語化されていない情報が多いからだと推測できる。

「書きことば」は、一般的には、不特定多数の人が「ウ」になる。したがって、情報があまり共有されていないことが前提になる。細かいことを伝えるためには、いろいろと説明をする必要があり、長々と書かなければならなくなる。情報が共有されていないのだから、必要最低限のことは、整理して提示しておかなければならない。「ウ」がわかりやすいような工夫が自然に必要なようになってくる。「整理」は情報の【A】、必要に応じた圧縮、並び順などさまざまな面に及ぶ。「書きことば」にはそうしたことを適切に行うスキルがどうしても必要になる。自然習得できないのは当然であろう。

また、言語には始まりがあって終わりがある。これを言語の「線状性」と呼ぶことがある。線や紐のように、初めがあって、終わりがあり、直線的に進むということだ。

しかし、ほんとうにむだなく直線的に進むかという点、そうではない。話が「本線」をはずれて脇道に進むような時に「話が脱線した」という。全体としては線状的に進んでいるが、時として脇道にそれることはよくある。話している本人は徐々に話が脱線していることに気づかないで話していることがあるが、話を聞いてノートしている人はそれが気づきやすい。授業で、無意識のうちに話が「本線」をそれてしまい、そういう時は往々にして話に熱中している時だから、「あれ、話がそれた」と気づき、「本線」に戻ろうとした時に、どこからそれてしまったかすぐにはわからない時がある。授業を聞いている学生に、どこに戻ればいいかをたずねるとすぐにわかることが多い。学生はノートをとって「話しことば」を「書きことば」として定着させているので、話がそれていることにすぐに気づく。それた話はノートしないことが多いので、どの話に戻ればいいかがすぐにわかる。これが「話しことば」と「書きことば」の違いといってもよい。

「話しことば」を整理して「書きことば」にする場合、無駄な「情報」や重複している「情報」を省くだろう。それは「情報」の【A】であり、整理である。「話しことば」にはそうしたいわば「ノイズ」が含まれている。「ノイズ」といつてしまってもいいかどうか、そのことについてでも考えておく必要があるが、今ここでは③「ノイズ」ということにしておく。わかりやすく話すのには「話しことば」にありがちな「ノイズ」をなるべくいれないようにして、「書きことば」にちかい「構造」をもたせるといことがまずは考えられることになる。

筆者は「書きことば」の特徴は「圧縮」と「構造」だと考えている。両者はふかく結びついている。「情報」を目的に合わせて「圧縮」して「構造化」して提示するのが「書きことば」だと思えばよいだろう。

(今野真二『うつりゆく日本語をよむ』による。一部改変)

問一 傍線部①「タイショウ」を漢字に改めよ。

問二 傍線部②「録音」と同じ構成の熟語を、次の1～4のうちから一つ選びその番号を書け。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1 完治 | 2 未熟 | 3 鎮痛 | 4 正邪 |
|------|------|------|------|

問三 本文中の【A】には「悪いものや不必要なものを捨て、良いものや悪いものを選びとる」という意味の四字熟語が入るが、その四字熟語を漢字で答えよ。

問四 二重傍線部「特徴」の「徴」を楷書で書いた場合の総画数と、同じ画数の漢字を次の1～4のうちから一つ選びその番号を書け。

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 1 歌 | 2 質 | 3 間 | 4 遠 |
|-----|-----|-----|-----|

問五 本文中の「ア」「イ」「ウ」にはそれぞれ「話し手」「読み手」「聞き手」の語句が入るが、その組み合わせとして正しいものを次の1～

4のうちから一つ選びその番号を書け。

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| 1 | ア「話し手」 | イ「読み手」 | ウ「聞き手」 |
| 2 | ア「読み手」 | イ「聞き手」 | ウ「話し手」 |
| 3 | ア「話し手」 | イ「聞き手」 | ウ「読み手」 |
| 4 | ア「聞き手」 | イ「話し手」 | ウ「読み手」 |

問六 傍線部③「ノイズ」とあるが具体的には何を指すか。本文中から二十字以内で抜き出して答えよ。

問七 本文の内容として適当なものを次の1～4のうちから一つ選びその番号を書け。

- 1 「書きことば」は読み手がわかっていることが多く、読み手と情報の共有ができているため言語化されていない情報が多い。
- 2 「話しことば」は場の共有をしている場面でのみ使用される。
- 3 「書きことば」は情報の整理が必要であるため、自然習得できない。
- 4 「話しことば」は話が脱線しやすいが、脱線した際にはそれに気づきやすい。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点は字数として数えること。

太平洋戦争直後の混乱期の広島で、母親に女手ひとつで育てられていた昭広（俺）。働く母を恋しがって、まだ幼い昭広が夜の盛り場にやってくるため、心配した母親は妹に頼んで、実家である佐賀の母（昭広にとっては祖母）の所に昭広を連れて帰らせる。祖母はとてつもなく貧乏で苦勞人であったが、したたかでバイタリティあふれる人物であった。半ばだまされたように佐賀で暮らし始めた昭広だったが、祖母や周囲の優しい人々に影響を受けながら、多感な小学生時代をたくましく生きていた。ただ、広島母親とは年に一回夏休みにはかえなかった。

さて、会えるのは年に一度だったので、俺とかあちゃんはいつも、手紙のやりとりをしていた。『こういうものがいるので、送ってください』そんな手紙を書くと、必ず半分だけ叶えられて、もう半分は叶えられない。そのことによつて俺は、かあちゃんの（A）の両方を感じたものだった。

かあちゃんから手紙が来る時は、必ず俺宛^{あて}とばあちゃん宛の二通が一緒に届いた。その日も、かあちゃんから二通の手紙が届いて、俺とばあちゃんは茶の間でそれを読んでいた。「ごめんください」はい、はい。どなた？」玄関で声がしたので、ばあちゃんが表に出ていった。その時、手紙は開いて置かれたままだった。盗み読みしようなどという気は全然なかったのだが、俺は何気なくその手紙を覗き込んだ。手紙は、『前略 昭広は元気ですか』で始まっている。最初に俺のことが書いてあったのが嬉しくて、俺は手紙を読み進んだ。ところがその後、手紙には苦しいかあちゃんの⑦キンキョウが綴られ、『……毎月五千円を送っていましたが、今月は二千円しか送れないので、お母さん、何とかお願いします』と書かれてあったのだ。

ばあちゃんが茶の間に戻って来たとき、俺は（B）顔で座っていたけれど、内心はどうしていいかわからなくなっていた。ただでさえ貧乏なのに、今月はかあちゃんが二千円しか送ってこないのだ。のほほんと暮らしている場合ではない、という気がしてきた。考えた末、俺はご飯を控えることにした。

その日の夕飯になった。おかずは相変わらず貧相で、漬け物と野菜の煮ただけだった。おかずが少ししかないのです、俺はその分、いつも白い飯を腹いっぱい食っていた。茶碗は、瞬く間にからっぽになった。いつもなら、「おかわり！」と言うところなのだが、その日はそこで茶碗と箸^{はし}を置いた。おかわりしてくれようとしていたばあちゃんが、a げげんな顔になる。「どうしたと?」「別に。今日はもういい」「なんで?」「……………」「具合でも悪かとね?」「別に」「おかわりして、ご飯、もう一杯食べんね?」「もう、いい……………」うなだれている俺を見て、ばあちゃんは、はっと気づいたように言った。「お前、手紙見たのか?」「うん……………」そのとき、俺を見たばあちゃんの顔は、今でも胸の奥に焼き付いている。怒っているような、悲しいような、なんとも言えない顔だった。俺は、たまらなくなつて①家を飛び出した。土手まで行く

と、それまでこらえていた涙が、（C）あふれ出してきた。何もかもが、腹立たしくて、悔しくて、たまらなかった。

家に帰ってばあちゃんと顔を合わせるのが嫌で、俺はむやみに土手を歩き続け、暗くなってから、そっと自分の部屋へ戻った。すると、きちんと敷かれた布団の枕もとに、フキンをかけたお盆が置いてある。フキンをとると、大きなおにぎり一つ、お皿に載っていた。『ごはんくらい、食べなさい』というばあちゃんの手紙と一緒に。

②また涙がこぼれそうになりながら、おにぎりを食べていると、ばあちゃんがガラリとふすまを開けた。「帰ってたのか」「うん」ばあちゃん、それ以上は何も言わず、おにぎりを食べる俺をじっと見ていた。b 気丈な人だったので涙はこぼさなかったけれど、そのとき、ばあちゃんの瞳は確かに、ゆらゆらと揺れていた。「①センゾ代々貧乏」と豪快に笑っていた③ばあちゃんが初めて見せた涙だった。

（島田洋七『佐賀のがばいばあちゃん』による。一部改変）

〈注〉茶の間…家族が食事や団らんなどをする部屋

問一 傍線部ア・イのカタカナを漢字に直せ。

- ア キンキョウ イ センゾ

問二 波線部 a「けげんな」 b「気丈な」の意味を次から選べ。

- | | | | | |
|---|---------|---------|----------|-----------|
| a | ア 心配そう | イ 不思議そう | ウ 不満そう | エ めんどくさそう |
| b | ア 負けずらい | イ 頑固 | ウ 精神力が強い | エ 気前がよい |

問三 空欄 A に入る語句を次から選べ。

- | | | | | | | | |
|---|------------|-------|--------|-------|------|-------|-----|
| ア | いい加減さとやさしさ | イ 貧しさ | と心の豊かさ | ウ 苦しさ | と責任感 | エ 大変さ | と愛情 |
|---|------------|-------|--------|-------|------|-------|-----|

問四 空欄 B・C に入る語句を次からそれぞれ選べ。

- | | | | | | | |
|---|---------|--------|--------|----------|-------|-------|
| ア | 申し訳なさそう | イ 何食わぬ | ウ すずしい | エ とてつもなく | オ 自然に | カ 一気に |
|---|---------|--------|--------|----------|-------|-------|

問五 傍線部①とあるが、その理由を、解答欄に合った形で、文中より二十五字以内で抜き出し、最初と最後の四字を答えよ。

問六 傍線部②とあるが、なぜ「涙がこぼれそうにな」ったのか。次から選べ。

ア ばあちゃんの優しさが心に染み込から。

イ やつと空腹を満たすことができたよろこびから。

ウ おにぎりだけしかなかったことが悔しかったから。

エ 自分の軽はずみな行動を心から反省したから。

問七 傍線部③とあるが、このときの「ばあちゃん」の気持ちはどういうものか。次から選べ。

ア もっと親身になって母親の相談に乗ってやればよかった。

イ 子どもなりに精いっぱい気遣いを見せる孫がかわいそうであわれだ。

ウ 孫に最低限のことさえしてやれない自分の無力さが情けない。

エ 孫につらい思いをさせた貧乏が心から憎い。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

近年の帰朝の僧の説として、ある人の語りしは、唐土に賤しき夫婦あり。餅を売って①世を渡りけり。夫、道のほとりにして餅を売りにけるに、②人の袋を落したりけるを取りて見れば、銀の軟挺六ありけり。家にもちて帰りぬ。妻、心 **a** すなほに欲なき者にて、「我らはあきなうてすぐれば事もかけず。この主いかばかりか嘆き求むらむ。③いとほしき事なり。主を尋ねて返し給へ。」と言ひければ、「実に。」とて、あまねくふれけるに、主といふ者出で来て、これを得てあまりに嬉しくて、三をば奉らん。と言ひて、既に分かつべかりける時、**b** 思ひかへして、煩ひを出ださんために、「七こそありしに、六あるこそ不審なれ。一つをばかくされたるにや。」と言ふ。「さる事なし。もとより六なり。」と論ずる程に、はては国の守のもとにして、これをことわらしむ。国の守、眼賢しくして、この主は不実のもの、この男は正直のものと見ながら、なほ不審なりければ、かの妻を召して、別の所にして、事の子細を尋ぬるに、④夫が申し状にすこしもたがはず。この妻は極めたる正直の者と見て、かの主、不実の事たしかなりければ、国の守の判にいはく、「この事たしかの証拠なければ判じがたし。ただし、ともに正直の者と見えたり。夫妻また詞たがはず。武士の詞も正直にきこゆれば、七あらむ軟挺を尋ねて取るべし。これは六あれば、別の人のにこそ。」とて、六ながら夫妻にたびけり。宋朝の人、⑤いみじき成敗とぞ、あまねくほめののしける。心直ければ、おのづから天の与へて宝をえたり。心まがれるは、冥とがめて財を失ふ。この理すこしもたがふべからず。返す返すも心は清くすなほなるべきものなり。

『沙石集』による。一部改変

唐土…中国。	銀の軟挺…良質の銀貨。	事もかけず…経済的に不自由もしていない。
煩ひを出ださんために…面倒を引き起こそうと。	国の守…国の長官。	ことわらしむ…判定させることになった。
たびけり…お与えになった。	宋朝…中国の王朝名。	成敗…判決。
冥…目に見えない神や仏。		

問一 波線部 a「すなほ」・b「思ひかへし」の読み方を、現代仮名遣いに直して、ひらがなで答えよ。

問二 傍線部①「世を渡りけり」・③「いとほしき」の意味として最も適当なものを、それぞれ一つ選び、記号で答えよ。

①「世を渡りけり」

ア 人気を得ていた イ 生計を立てていた ウ 各地を旅していた エ 出世していた オ 役所に納めていた

③「いとほしき」

ア 面倒な イ 心配な ウ もったいない エ 気の毒な オ いじらしい

問三 傍線部②「人の袋を落したりけるを取りて見れば」とあるが、この部分の意味として最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 誰かがわざと捨ててしまった袋を夫が拾って見てみると

イ 夫が落とした袋をある人がなげなく拾って見てみると

ウ 誰かがうっかり落としていた袋を夫が拾って見てみると

エ 他の人が袋を落とすのを見ていた夫が拾って見てみると

オ 落とした袋を探していた人が夫の服を拾って見てみると

問四 傍線部④「夫が申し状にすこしもたがはず」とあるが、「夫が申し状」に該当する箇所を、本文中からそのまま抜き出して答えよ。

問五 本文中に、「主」の語ったところで「」を付ける部分が一か所ある。その適切な部分を、本文中からそのまま抜き出して答えよ。

問六 傍線部⑤「いみじき成敗」とあるが、宋朝の人々がこのように国守を称賛したのはなぜか。次の中から最も適当なものを一つ選び記号で答えよ。

ア 賤しき夫婦が袋を拾ったが、落とし主が不審に思って国守に訴え、国法にのっとって正しく判決したから。

イ 賤しき夫婦が袋を拾ったが、落とし主の言うことが正しいと判断し、賤しき夫婦の嘘を正しく判決したから。

ウ 賤しき夫婦が袋を拾ったが、国守が落とし主の不正な考えに対して正直者が得をするような裁定を下したから。

エ 賤しき夫婦が袋を拾ったが、国守が拾い主と落とし主のどちらの意見も正しいと思い、言い分を公平に聞いたから。

オ 賤しき夫婦が袋を拾ったが、国守は銀の軟挺の数は落とし主の言うことが正しいと判断し、賤しき夫婦が成敗されたから。

漢文に関する次の問いに答えよ。

①

レ

レ

○

②

二

レ

○

低頭思故郷

＊書き下し文＊ 「人事を尽くして天命を待つ。」

尽人事待天命。

① 鷄口牛後

② 朝三暮四

A 二者が争っている間に第三者が利益を得ること。

B 他人の意見を聞き入れないこと。

C 無駄な行為、余計な付けたし、あつても益のないもの。

D 目の前の差にこだわり、結局は同じ結果なのに気がつかないこと。

E 他人のつまらない言動でも、自身の向上の助けとなること。

F 強い勢力のあるものにつき従うより、たとえ小さくても独立したものの頭となれということ。